



八百津だんじり祭り

藤のツルから考える人と自然の共生

八百津だんじり祭 躍動するだんじりと舟運の歴史

八百津だんじり祭

4月の第2日曜日（本樂）とその前日の土曜日（試樂）に岐阜県加茂郡八百津町でおこなわれる大船神社のお祭り。

だんじり（山車）

本郷組・黒瀬組・芦渡組の3組に分かれており、3輦のだんじりを合せると舳先は芦渡、胴中は本郷、艫は黒瀬と大きな船の形となる。

黒瀬湊

かつては木曾川舟運最上流の発着点であり、人と物と文化の交流拠点。

錦織綱場

木曾川の木材運搬の中流にあり、頑丈な留綱を張り渡して流送される木材をせきとめた場所。上流から辿り着いた木材は綱場で筏（いかだ）に組まれ、下流のまち（伊勢湾）に流送。



八百津だんじり祭

藤蔓（ふじづる） 筏組みの藤蔓を扱う技術がだんじりに継承

繊維が強い藤の蔓

筏を組むための縄として用いられたのが藤の蔓。筏組みだけでなく、藤の特性を生かしてだんじりの車台を固定するための縄としても用いられている。

樹木に巻き付く蔓植物

- ・人工林では、スギ等に巻き付き、木材の価値を下げる林業の厄介者。
- ・自然林では、蔓が幹にくい込み、樹木を枯死させ森林循環の一役。



藤蔓で縛った車台

ワークショップ開催報告 木材運搬の歴史と藤蔓の特性を学習

藤採り現場、黒瀬湊、錦織綱場跡などを視察

森林循環の一役を担いながらも、人に対してときに有益で、ときに有害な藤の蔓について学び、人と自然との共生について考える。



今年の祭のために採取した藤蔓

受け継がれる藤の蔓と八百津だんじり祭の講演

講師：市岡和男（黒瀬組）

森でのフジの役割に関する講演

講師：竹島喜芳（中部大学准教授）

野生の藤を見学

藤採りは、毎年1月末から2月初旬に行われ5～6年周期で場所を変える。そのうちの1箇所を見学。

だんじりを見学

組み立て前のだんじりを見学。その他、八百津発展の縁の地を市岡氏の解説とともに見学。

中部ESD拠点「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」

は、文化と生物の多様性を学び、それらの保全を通して持続可能な地域づくりをおこなう活動で、トヨタ環境活動助成を受けています。市民一人ひとりが、文化・日常生活との関わりの中で、生物多様性の重要性を理解するために、地域文化の中でも特に「祭り」に焦点を当てて、祭りに関わる植物・食べ物（食材）の生育環境保全についての学習プログラムを開発し、ワークショップを開催しています。



だんじりの見学

